

校 園 別 研 究 目 標

「校園別研究目標」は、校種別に各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などの課題を示したものである。

学習指導に当たっては、幼児・児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の状況に応じた指導・支援を行うために、学習活動、学習形態、評価方法及び教材・教具などを工夫することや、幼児・児童・生徒一人一人が意欲をもって自ら考え、判断し、表現できるような指導方法・指導体制の工夫改善を図り、学び方を身に付け、学ぶ楽しさを実感できる授業の展開に努めることが重要である。

また、小中一貫した教育をはじめとする校種間連携を一層推進するため、全ての教科・領域において、校種間の円滑な接続を図るための研究に努めることが大切である。

◇ 小 学 校

(1) 国 語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域において、日常生活に必要とされるさまざまな言語活動を通して国語の能力を身に付けることができる指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、児童が身に付けた知識及び技能などを活用して課題を探究することのできる学習形態や指導方法について研究する。

ウ 伝統的な言語文化に親しむ態度や国語の特質を理解する能力を育てるために、伝統的な言語文化に関する教材を取りあげるとともに、児童の実態に即した言語活動を通して、言葉や文字に関する事項の定着を図る指導方法について研究する。

エ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、一人一人のよさを認め、それを生かす指導計画、評価方法について研究する。

(2) 社 会

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、児童が社会とつながる教材、とりわけ人間の働きや知恵に学ぶことができる教材の開発、集団で話し合い考えを深めるなど指導方法の工夫を行うとともに、問題解決的な学習を一層充実させることを通して、各種の資料を多面的に読み取り活用する力、自らの考えを適切に表現する力を高める指導のあり方について研究する。

イ よりよい社会を実現しようと、学びを生かし、実践する力を高めるために、学習の基盤となる知識や概念、技能の習得を重視するとともに、それらを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を培うことをめざす指導計画や指導方法について研究する。

ウ 児童一人一人の学習状況を的確に把握し評価するために、学習指導の改善に生かす評価計画や評価方法について研究する。

(3) 算 数

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、算数的活動の一層の充実を図るようにし、自分で工夫して問題を解決したり、新しい考え方や処理の仕方を生み出したりすることができる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を一層充実するために、基礎・基本の確実な定着を図り、児童の学習状況に応じて、補足的な学習や発展的な学習を行うなど、習熟の程度に応じた効果的な指導方法について研究する。

ウ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に準拠した評価を一層重視し、児童の学習状況を把握して、学習指導の改善に生かすことができるように、評価規準や評価方法について研究する。

(4) 理 科

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させ、協働的な学びの中で問題解決の能力を高め、科学的な体験や自然体験を重視した創意ある指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を一層充実するために、児童一人一人の発想を生かした習得・活用・探究の学習活動が展開できる指導方法や指導体制のあり方について研究する。

ウ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に準拠した観点別評価を一層重視し、学習指導の改善につながる評価のあり方について研究する。

(5) 生 活

ア 思考力、判断力、表現力の育成を図るために、具体的な活動を一層重視し、体験を通して身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めるとともに、気付いたことをもとに考えさせるための多様な学習活動の工夫について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、一人一人の興味・関心や活動での気づきを質的に高める手だてや支援のあり方について研究する。

ウ 幼児教育との連携を図るとともに、他教科等との関連や中学年以降の各教科等の学習への円滑な移行を図るために、単元構成のあり方や多様な学習活動、支援のあり方について研究するとともに、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成を進める。

エ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、単元目標を明確化するとともに、児童の活動や体験そのものを多面的に評価する方法や、児童の成長をとらえる評価のあり方について研究する。

(6) 音 楽

ア 音楽的な感性と、音楽表現や鑑賞の力の育成を図るために、音楽に対する関心・意欲・態度を高め、生涯を通して音楽を愛好する心情を育てるとともに、豊かな音楽活動を展開できるような題材・教材の工夫と開発や、楽しく主体的に学習を進める工夫について研究する。

イ 個と集団の深まりを体験させる学習指導のあり方を工夫するために、【共通事項】に示された音楽を特徴付けている要素や音楽のしくみの生み出すよさや美しさを感じ取り、思いや意図をもって表現したり鑑賞したりすることができるような指導方法を研究する。

ウ 児童の学習の達成状況を的確に把握するために、一人一人のよさを認め、それを生かす指導計画、評価規準や評価の具体的な方法について研究する。

(7) 図画工作

ア 造形表現における創造活動の基礎的な能力の育成を図るために、感性を働かせながら表現活動に取り組む態度を養い、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力を高める指導と評価のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導の充実を図るために、一人一人の豊かな発想を促し、もてる力を十分に働かせ、つくりだす喜びを味わうことのできる題材や指導方法の工夫について研究する。

ウ 児童の学習の達成状況を的確に把握するために、一人一人のよさや可能性をとらえ、それらを生かすことのできる学習課程の工夫や評価のあり方について研究する。

(8) 家庭

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくむ指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用して生活をよりよくしようと工夫する能力と、進んで実践しようとする態度を育てる指導のあり方について研究する。

ウ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に照らしてその実現状況を把握し学習指導の改善に生かすための評価のあり方について研究する。

(9) 体育

ア 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるために、児童の能力、適性、興味、関心に応じた運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに、考えたり工夫したりしながら自ら課題を解決しようとする児童を育てる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた指導や、児童が自己の体力や体の状態を把握し、自ら体力を高める実践力を育成する指導のあり方について研究する。

ウ 児童の学習の達成状況を的確に把握しよさを伸ばすために、「技能」「態度」「思考・判断」の観点から具体的な評価規準を作成するとともに、学習指導の改善に生かす毎時間の目標に準拠した評価のあり方について研究する。

(10) 道徳

ア 「人間尊重の精神」と「生命に対する畏敬の念」を基盤として、児童の道徳性を育成するために、道徳教育の全体計画では、道徳教育の要としての道徳の時間の役割と重要性をふまえつつ、教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を生かした指導の充実を図るとともに、計画そのものに具体性をもたせ、児童の内面に根ざした道徳性を育てる指導を更に深化させ、道徳的実践に生かす道徳教育のあり方について研究する。

イ 児童が道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導を創造するために、道徳の時間の年間指導計画では、いずれの学年でも内容項目を全て取りあげて計画的に位置付けながら、児童の発達段階を考慮して重点化を図るとともに、多様な指導方法について研究する。また、道徳の時間の授業を公開するなど、学校と家庭や地域社会とが共通理解を深め、相互の連携を生かした指導の工夫や児童の心に響く教材の開発・活用などについて研究する。

(11) 外国語活動

ア コミュニケーション能力の素地を育成するために、教材や場面設定を工夫し、C-NET との連携を通して、児童の「したい」「伝えたい」と思うような身近な英語を扱うことに重点を置いた学習活動のあり方について研究を進める。また、コミュニケーションに必要な表現を身に付けるために、外国語を用いた様々な活動を効果的に活用できるあり方についても研究する。

イ 個に応じた学習活動のあり方を工夫するために、一人一人の興味・関心を高め、効果的な視聴覚教材・機器の活用や支援のあり方について研究する。

ウ 中学校への円滑な移行を図るために、「読む」「書く」ことに関する実践的研究を進める。さらに、外国語の音声に慣れ親しみ、「Dream」などの音声指導教材や絵本などを活用して、文字に親しむことができるようにする。

エ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、児童の学習活動そのものを多面的に評価する方法、児童の成長をとらえる評価規準のあり方について研究する。

(12) 総合的な学習の時間

ア 思考力、判断力、表現力の育成を図るために、各教科・領域等で身に付けた知識や技能を相互に関連付けながら、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が展開できるように研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、体験的な学習や問題解決的な学習・探究的な学習を軸に、グループ学習や異年齢集団による学習などの学習形態の工夫、地域の人々や専門的知識を有する人々などの協力を得た指導体制の工夫などについて研究する。

ウ 創意工夫ある学習活動が展開できるようにするために、地域や学校、児童の実態などに応じて、教科・領域等の枠を超えた横断的・総合的な学習や探究的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など、地域の教材やさまざまな学習環境を積極的に活用した学習活動のあり方を研究する。

エ 児童の学習の達成状況を適切に評価するために、学校における全教育活動との関連において、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、

学習の評価の計画を示すなど、総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画の作成について研究する。

(13) 学級活動

ア 望ましい人間関係や社会性をはぐくみ、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育成するために、学校や学級、児童の実態及び発達段階や学年の課題に応じて指導内容の重点化を図るとともに、多様な活動内容や指導のあり方について研究する。

イ 学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上を図り、意欲的に実践する力を育成するために、学級や学校の生活づくり、日常の生活や学習への適応及び、健康安全についての話し合い活動を重視した効果的な指導のあり方を研究する。

(14) 児童会活動

ア 望ましい人間関係や社会性をはぐくみ、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てるために、異年齢集団による児童会活動を通して、全校児童のつながりを深める活動内容や指導のあり方について研究する。

イ 児童会活動を通して、学校生活の充実と向上をめざして意欲的に実践する力を育てるために、全校児童の発意・発想を生かした実践活動に結びつく話し合い活動の指導のあり方について研究する。

(15) クラブ活動

ア 望ましい人間関係や社会性をはぐくみ、実践的な態度を育てるクラブ活動を推進するために、異年齢児童による集団活動での相互の交流を深め、共通の興味・関心を追究する集団活動の内容や指導方法について研究する。

イ 集団の一員としてよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育成するために、互いに認め合い、協力し合い、助け合いながら、個性の伸長を図り、満足感や成就感を味わうクラブ活動の指導のあり方について研究する。

(16) 学校行事

ア 集団への所属感や連帯意識を深めつつ、望ましい人間関係を形成し、豊かな人間性や社会性を育てる学校行事を推進するために、行事間及び他の教育活動と有機的な関連をもたせた活動内容や指導方法について研究する。

イ 公共の精神を養い、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるために、異年齢集団での交流や地域の人々とのかかわり、自然・文化とのふれあい、ボランティア活動などの望ましい集団活動や感動的な体験活動を通して個性の伸長を図る効果的な指導のあり方について研究する。

(17) 特別支援教育

ア 児童の自立への可能性を最大限に伸ばすために、学校の教育活動全体を通じて、共に育ち共に学びあう交流および共同作業を進め、児童の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間

関係を育てる効果的な指導・支援の方法について研究する。

イ 個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする児童の実態把握に努め、合理的配慮の観点をつまみ、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、発達障がいを含め多様化する一人一人のニーズに応じた具体的な指導・支援の方法について研究する。

ウ 児童の実態を的確に把握し、支援を充実させるために、特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

エ インクルーシブ教育システムを構築するために、障がいのある児童と障がいのない児童が、共に学ぶための学習環境の整備として、ユニバーサルデザインを取り入れた指導・支援のあり方について研究する。

(18) 保健教育

ア 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、心身の健全な発達と健康の保持増進に関する基礎的・基本的事項の主体的な理解を図り、心身の健康の問題を自分で判断し、改善できる資質や能力・実践的な態度を育てる指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識や技能などを日常生活に活用する実践的な態度を育てる指導のあり方について研究する。

ウ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、一人一人のよさを認め、それを生かす指導計画、題材、評価のあり方について研究する。

(19) 学校給食食育

ア 生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎を培うために、学校の教育活動全体を通じた食に関する指導や学校給食を活用した効果的な指導について研究する。

イ 個に応じた指導のあり方を工夫するために、一人一人の実態に即して、望ましい食習慣の形成に向けた支援のあり方について研究する。

(20) 生活指導

ア 児童理解を基盤とした生活指導を推進するために、「いじめ」「不登校」をはじめ、生活指導上の諸問題について、人間尊重の教育を一層推進する観点から児童理解に努めるとともに、教育全体に関わる基本的な問題として正しく受けとめ、全ての教育活動の中で機能する生活指導のあり方と家庭・地域・関係諸機関との連携について研究する。

イ 一人一人の児童を生かした集団の育成を図るために、児童の生活背景を正しく把握したうえで、児童の願い、悩み、不安を単に個人の課題としてではなく、所属する集団の全ての児童が自らの課題として正しく受けとめ、課題解決に向けて、主体的・創造的に働きかけることのできる集団を育成する指導のあり方について研究する。

ウ 幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携に基づく生活指導体制を確立するために、保護者や地域社会の願いを正しく受けとめ、幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携を密にし、一人一人の幼児・児童・生徒の成長・発達に即した一貫性のある効果的な指導のあり方について研究する。

(21) 学校図書館教育

ア 生涯にわたって読書に親しむ資質や能力を育成するために、読書を通して豊かな感性や情操をはぐくむとともに、国語科に限らず各教科・領域等における指導との関連を図った読書活動のあり方について研究する。

イ 学校図書館を計画的に活用し、自ら学ぶ態度の育成を図るために、図書資料をはじめとする多様なメディアを生かした情報・資料を収集・選択・活用する能力を育成し、主体的な学習活動を支援する学習・情報センターとしての学校図書館のあり方と指導方法について研究する。

(22) 視聴覚教育

ア 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、ICT（情報通信技術）を活用した効果的な学習指導のあり方について研究する。

イ 情報社会での望ましい態度を育成するために、情報モラルの指導のあり方や指導計画について研究する。

(23) 新聞教育

ア 新聞に関する基礎的な知識及び技能を習得し、これらを各教科・領域などで活用する際に必要となる思考力、判断力、表現力その他の能力を育成するために、言語活動の充実を図るとともに、集団による新聞づくりや新聞の活用を通して責任感や連帯感を培い、学級や学校の諸問題を解決していこうとする態度を育てる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、一人一人の興味・関心や表現の工夫についての支援のあり方について研究する。

ウ 教科学習への円滑な移行を図るために、児童が身に付けた知識及び技能を効果的に各教科・領域等で生かすことができるよう、新聞教育の位置付けと新聞を生かした指導について研究する。

エ 児童の学習の達成状況を的確に評価するために、児童一人一人のよさを認め、それを生かす指導計画、題材、評価のあり方について研究する。